

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 23 章 26-43 節 ① >

1 (26) 信仰の言い表しに満ちたイエス様の死の報告記事。

イエス様の十字架をキレネ人（北アフリカ）シモンが背負わされます。このように聖書に名前が出てくる場合、その人物は初代教会で知られていた、すなわち信仰者になったと考えられます（マルコ 15:21 には彼の二人の息子の名前もあり）。わざわざ「イエスの後ろから運ばせた」とあるのは、「弟子になり従った」ということなのです。普通に考えればイエス様のせいで災難に遭った人がイエス様を救い主とする信仰を持ったのです。どうしてそうなったのかを考えるように、と訴えかけているのです。

2 (27) 二種類の民衆がいた？ あるいは私たちの姿？

先週、扇動されて興奮しやすい「民衆（人々）：原語 ラオス」（13）の姿を見ました。しかし、今日の個所では十字架に架けられるイエス様に「民衆」が従っています（27）。しかし、これは「この人は敵、あの人は味方」と単純に二つに分けて決めつけてしまえるようなものではないと思います。パウロのように激して人々をイエス殺しにけしかけていたのに、神様に 180 度変えられてイエス様の弟子になった人もいるのですから。この二つは私たち自身の中にどちらもあるものなのです。ですから、扇動に乗せられるのではなく正しいのはどちらかを冷静に見抜ける者に、さらには、イエス様の死に神様が込められた深い恵みの意味を悟れる者になることが全ての人の最終目標です。

3 (28-34) ご自分のことより、私たちのことを心配されるイエス様。

イエス様のことを嘆き悲しむ婦人たちを見て、むしろその婦人たちのことを思いやるイエス様の姿をルカは伝えています。その姿は、ご自身を十字架につけた人々のために「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」（34）と祈られたことで頂点に達すると言えるでしょう。イザヤ書 53 章の「主の苦難の僕」で預言された内容がここで深く理解されるのです。すなわち、扇動されやすく、自分が正しいと思いやすく、それ故に神様を軽んじ、うるさがって神様の御子を十字架にかけてしまいやすいのが私たち。その罪深い私たちが御子によって赦し、「私の方に向き直って生きよ」と呼び掛けて下さる神様なのです。この神様を信じて生きられる恵みに感謝！